
論文計画書 その2 概要

氏名: 大塚静空

作成日: 2025年8月19日

※なるべく枠のサイズを変えないように書くこと(たくさん書くことよりも、要点をまとめることを意識する)。

1. 背景:「論文計画書 その1」で書いたことの背景を考える

社会的背景(どのような社会状況の中でどのような問題が生じているか)

現代社会において、働き方の多様化が進行する一方で、過重労働やワークライフバランスの維持が重要な課題となっている。特に、大学教員は裁量労働制が適用され、デジタル技術の普及により、研究活動が特定の物理的空間に縛られることなく行えるようになった。しかし、この変化は、仕事と私生活の境界を曖昧にし、新たな時空間的な問題を生じさせている可能性がある。

学術的背景(問題に対する学者たちの見解、先行研究が抱えている課題等)

大学教員の労働に関する先行研究は、業務量の増加や厳しい評価制度がもたらす「研究時間の確保」に焦点を当ててきた。一方、「空間」が研究活動や生活に与える影響については、十分に検討されてこなかった。また、西村論文のように、仕事とケアの調整を時空間的に捉える研究は存在するものの、大学教員の多様な役割(研究者、教育者、生活者)を包括的に扱った研究は少ない。本研究は、この「空間」の視点と、役割の複雑性というギャップを埋めることを試みる。

2. 目的:背景を踏まえ、この研究で何をするかを示す

本研究は、大学教員の「生活」を、「研究者」「教育者」「生活者(家事・育児など)」という多様な役割が混在する時空間的な実践の場として捉え、デジタル技術の普及と裁量労働制がそれらの時空間的構造に与える影響を、時間地理学の手法を用いて解明することを目的とする。

3. 方法:目的を達成するための方法を示す

研究方法(研究のおおまかな流れや手順、依拠する理論、概念的枠組み等)

本研究は、時間地理学の理論を依拠する。大学教員の活動を、時間と空間の中で可視化する個人経路(individual path)を分析することで、以下の流れで議論を進める。

- ① デジタル技術と裁量労働制が、大学教員の活動空間の構成と利用パターンに与える影響を考察する。
 - ② 複数の役割を担う教員が、時間的・空間的な制約の中で、役割間の葛藤をどのように調整しているかを明らかにする。
 - ③ これらの分析を通じて、現代の「知識労働」における空間利用の実態と、そこから生じる課題を考察し、ワークライフバランスの観点から見た大学教員の持続可能な生活のあり方を提言する。
調査・分析方法（具体的に何を、どのような手法で調べ、分析するか）
 - ① 調査対象の大学教員に対して、活動日誌の記録を依頼する。日々の活動内容（研究、教育、事務、プライベートなど）、場所（研究室、自宅、移動中など）、時間、そしてその活動に対する満足度を詳細に記録してもらう。これにより、客観的な活動データと主観的な満足度を組み合わせた分析を可能にする。
 - ② 活動日誌のデータをもとに、時間地理学的手法を用いて、教員の時空間的实践を個人経路として可視化する。
 - ③ 活動日誌の内容を補完するため、調査対象者への詳細なインタビューを実施する。活動の選択理由や、役割間の葛藤・調整のプロセス、特定の空間に対する意識などについて深く尋ねる。
 - ④ 以上のデータを総合的に分析し、デジタル技術と裁量労働制が、仕事と生活の空間的境界に与える影響、およびそれがワークライフバランスにどう影響しているかを考察する。
-

4. 読むべき文献（書誌情報を正確に書くこと）

- 時間地理学: 時間と空間を統合して個人の活動を捉える基礎理論に関する著作。
- 労働の地理学: 裁量労働制やリモートワークが労働空間をどう変容させているかに関する研究。
- 科学の地理学/知識の地理学: 知識生産や研究者の移動、ネットワークに関する研究。
- 高等教育研究・社会学: 大学教員の職務内容、役割葛藤、ワークライフバランスに関する研究。